

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375000250		
法人名	有限会社サポートハウス		
事業所名	サポートハウス東名ながくて 1F		
所在地	長久手市平池406		
自己評価作成日	平成27年9月21日	評価結果市町村受理日	平成28年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26		
訪問調査日	平成27年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者間の馴染みの関係性のもとそれぞれが自分の役割を持ち、お互いを気にかけてながら助け合い生活しています。家族、スタッフ、地域の方々、本人を取り巻く全ての人の協力のもと、それぞれの自分らしい生活が実現できるような支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

業務本位ではなく、利用者一人ひとりがそれぞれ役割を持ち、その役割が日々の生活の張り合いになっている。また、利用者同士意識し気遣い、助け合って生活している。職員は根気強くその様子を見守り、今出来る事が長く持続出来るように支援に努めている。外出の取り組みとして利用者が目的地までいくことを目標とし、公共交通機関を利用して、トヨタ産業技術記念館や東山動物園に出掛けたり、近隣のスーパーやドラッグストア等に利用者は気軽にいつでも出掛けられる見守りの支援を行っている。今後も利用者同士がそれぞれ気の合う人を見つけ、輪が広がりその中に職員も何等かのかたちで関わっていく支援を、続けていかれることを期待する。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誰もが見られる所に理念を掲示している。また事業所全体の会議や分科会で取り上げ、職員全体への浸透性を図り実践に取り組んでいる。	生活支援って何だろうと理念の見直しを行い、会議や分科会で利用者のやれる事、やって貰う事をやるにはどうしたら良いか話し合っ、確認し実践出来るように努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のスーパーへの買い物や散歩等を通して顔馴染みの関係となり、事業所が地域に浸透できるよう取り組んでいる。	近くのスーパーや薬局への買い物、散歩等の外出時には地域の人や子供達と挨拶を交わし、顔馴染みになっている。回覧板にホーム通信を入れて貰い、地域行事に参加する等の交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の方の運営推進会議への出席により地域の方へ情報を広げてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告に対し、出された意見や要望を分科会で話し合い日常の支援に活かせる様取り組んでいる。	運営推進会議ではホームの活動報告や日常の生活写真を見て貰い、参加者から意見や助言を多く受け、ホームの運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい事業所の実情や日頃の取り組みを伝えている。また利用者の状況により協力を仰いでいる。	日頃からホームの状況や取り組みについて伝え、協力体制が図られるように努めている。市主催の敬老会や作品展に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃除宣言を掲げ、法人全体の会議や分科会等で認識の共有をはかっている。また日常の中で職員同士拘束にあたらなにか話し合い、注意し合うことで理解を深めている。	ホームの玄関は施錠せず、利用者は自由に出入りし、職員は見守っている。身体拘束については勉強会で学び、認識の共有に努め、管理者は日々の支援の中で気付いた時に指導している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	分科会等で勉強会をもち、知識を深めている。また日常の業務の中で職員同士、注意をし合い省みる機会を持つことで防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要と思われるケースは入居時に関係者と話し合い活用できている個々のケースについて話し合うことで学ぶ機会となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に見学と面談を実施し、事業所のケアに納得してもらった上で契約を行っている。また改定時は説明会を開くとともに個別にも説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とは訪問時、電話等で常に話ができる環境、関係性をつくっている。職員は利用者との日常会話の中で出された要望を管理者、会社に伝え実現できるよう努めている。	利用者からは日々の支援の中で意見、要望が聞けるように努め、家族からは訪問時に意見、要望を聞き、出された場合はそれに沿えるように話し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人全体の会議や分科会等で職員が意見を述べる機会がある。また個別にも話し合う機会を設け、職員の意見が代表に届いている。	個人面談を行い職員と話し合っている。職員の意見や提案に関しては、管理者や施設長が早急に応え、ホームの運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力に対し賞与や手当等で明確に評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員に対しては社内研修を行うとともに仕事の中で育てている。また必要に応じ社内で勉強会を開いている。社外の研修も力量、年数に応じ参加の機会が設けられている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークづくりを大切にし、同業他社との勉強会や交流会に参加し意見交換に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話をよく聞き、本人を知ることにも努めている。また職員が仲介し、利用者とのコミュニケーションを図っている。本人の得意な家事、レクリエーション等で安心感を得られるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族の思いや考えにじっくり耳を傾け、ホームでの生活に反映できるよう支援方法の提案、説明を行い相互理解を図っている。いつでも訪問し、実践状況をみたり話をする事で安心感をもってもらえるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学時等に本人、家族の求めている支援を確認し、他サービス等の説明も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者主体の生活を送ることを念頭に置き、利用者同士が力を合わせ支え合いながら生活できるよう関係性の構築と環境づくりの支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子、状況等、家族と連絡を取りながら共に見守り時には協力を仰ぎ、一緒に支援して行く関係性を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住んでいたところの友人の訪問があったり、外出の際に以前に居住していた近所を訪ねる等し、気軽に外出したり訪問してもらえるよう環境を整えている。	友達、兄弟が訪ねて来たり、電話したり、家族の協力の下外食、正月に帰省する等馴染みの関係が継続出来るよう支援している。また、ホームを中心にスーパー、薬局等が馴染みになる等個々の生活習慣を大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、時に仲介し関係性の構築支援に努めている。相手を気遣い助け合って共同生活を営んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居中から信頼関係を築くよう努め、退所後も気軽に相談や訪問ができる関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らし関わりの中から希望や意向の把握をしている。困難場合はご家族から情報や今までの意向を考え、皆で検討し支援に繋げている。	職員は利用者に頻繁に話しかけ、コミュニケーションを密に図る様努め、話しぶりや目や顔の表情から個々の思いや意向の真意を推し図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集と入居後の本人の話等より現在に至るまでの本人を理解しこだわりや馴染みの暮らしの継続支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日報やスタッフ間の申し送りノート、口頭での申し送りで情報の共有をはかっている。また日々の変化も把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じ本人、家族、主治医、看護師、介護スタッフ他、本人に関わる人を交え様々な角度から意見を出し合い計画作成へ反映している。	介護計画は六ヶ月毎に会議で見直し、本人や家族の意見や日頃の生活の様子を基に作成している。利用者の意向や身体の変化が見られた際は臨機応変に検討し、現状に見合った介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の日報を作成し一日の様子や介護計画への取り組みを記録している。またそれをもとに状況把握し、ケアの実践に活かしている。状況変化が生じた時は情報を集約し介護計画の見直しに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人と家族の状況にあわせ、買い物や通院等に対応している。また希望に応じ訪問マッサージや訪問歯科、理美容を利用することも出来る。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣スーパー、ドラッグストア等への買い物、地域活動への参加等を通して地域と関わりながら生活していけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に当施設に協力医があることを伝え、た上でご家族や本人に決めてもらっている。定期往診は月2回であるが、急変時は24時間体制で対応してもらう事ができる。	入居後は24時間対応する協力医へ移行し、本人や家族の安心を得ている。希望時は通院の付き添い支援を可能とし、家族や協力医との情報交換等の連携体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康状態について相談しアドバイスをもらっている。その上で必要があればかかりつけ医の往診を受け、適切な医療を受ける。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の主治医、看護師と本人の状況、症状、治療方法等の連絡を取り合いながら退院に向けた情報交換や話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に家族、本人の意向を確認している。重度化した場合は、家族、主治医と話し合い方針決定し関係者間で情報共有している。またその際は家族と連絡を密にし、状態変化を伝えその都度意向の確認を行っている。	本人や家族の意向を尊重し、看取りの際には住み慣れたホームで安らかに過ごせる様な支援に努めている。職員の終末期への不安を無くす様、管理者が話を聴いたり勉強会を行い、看取りへの意識を統一している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを備え、各自が把握に努めると共に分科会等で話し合い周知をはかっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を昼間、夜間の想定で行い利用者自らが逃げ出せるよう訓練を行っている。また近隣との協力はもちろんだが全国のネットワークを活かし、物資、食糧等の確保も法人が積極的に行っている。	避難訓練は年二回実施している。災害時に早く安全な場所へ避難する事に重点を置き、職員間で問題点を話し合い改善に努めている。日頃から災害を起こさないという意識を高めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室やトイレに入る時はノックや声掛けをしている。また職員間で気付いた点に注意し合い、プライバシーの確保に努めている。	職員は利用者との信頼関係を築く事に努め、個々に心地良い言葉掛けや接し方に努めている。利用者ができる事へのサポートに徹し、人生の先輩として尊敬の気持ちを持って支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一緒に家事をしたりレクリエーションを行う際、まず本人の意向を聞いている。人によっては選択しやすい話し方や筆談等色々な方法で意思の確保をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の基本的な生活スタイルを把握、尊重しその日、その時々々の気持ちや体調を考慮しその人らしく思うように過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわりや好みを尊重し、服装等自己決定できるよう支援している。理美容時は本人が美容師とコミュニケーションを取りながら希望の髪型に整えてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立や味付け等利用者の好みや希望を取り入れ、利用者皆がそれぞれの役割りをもち調理から後片付けまで楽しんで行っている。	献立は利用者の好みや意見でアレンジや変更している。週二回のフリーメニューの日は、鍋やホットプレートを使った料理等、利用者が楽しめる食事を提供している。利用者が主体となり活気が見られる食卓となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に体調、嗜好、食事の形態、摂り方等状況に合わせて提供している。日々の状況に合わせて臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。見守りを行い、充分に行えていない場合は介助し口腔内の清潔に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンやサインを把握し声掛け誘導することでトイレでの排泄に繋がっている。また身体状況に合わせてポータブルトイレを使用し、排泄の自立をはかっている。	排泄チェック表を活用し、個々のリズムに合わせて声掛け誘導している。夜間はその日の体調や日中の様子を基に、体の負担を考慮しながら援助する等の細やかな配慮が見られる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄時間、日にちの間隔を把握し有効な飲食物を提供したり、薬の服用、体操等で予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に沿って入浴できるよう環境づくりをしている。	時間や順番を決めず利用者の希望時に入浴でき、友人同士入浴する等利用者の楽しみに繋げている。入浴を拒否する利用者には無理強いせず、声掛けに工夫して入浴を促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣や体調に合わせて休息を促している。本人が安心できるよう愛用品の持ち込み等環境整備に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々、薬剤師が主治医と共に来て、利用者に薬の説明と管理を行っている。職員は薬剤師からの情報を共有し、利用者が飲み忘れないよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味を継続し、自分らしく生活できる支援をしている。一人一人が生活の中で役割を持ち、張り合いを持って過ごせるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩等日常的に出掛けている。また公共交通機関を利用しての外出や外食等希望に沿って外出している。	近所のスーパーへ、利用者同士で出掛ける事もある。利用者が選択しやすい外出プランを立て、回転ずしやステーキ等の外食や、動物園やトヨタ博物館等への外出支援を行っている。長時間の外出が困難な利用者には散歩等で気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際はそれぞれがお小遣いを持ち買い物を楽しんでいる。また食材や日用品の購入時も商品選びから支払いまで利用者が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意思、希望により電話をしたり手紙を書いている。家族と連携を取り本人の思いに沿える様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同制作の作品を飾ったり、観葉植物を置く等し生活感のある空間作りをしている。	館内は風通しが良く、掃除が行き届き清潔感が感じられる。庭で摘んだ季節の花を飾ったり、壁の装飾に工夫して圧迫感のない様、暮らしやすい空間作りに努めている。利用者がくつろげる様ソファや椅子を多く配置し、利用者の交流を深めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者それぞれに好きな場所があり自由に過ごしている。1、2階の行き来も自由でお互いに行き来して交流している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物や使い慣れた物を置いたり、家族の写真や自分の作品を飾りくつろげる空間作りに努めている。	使い慣れた家具や仏壇を持ち込み、自分の作品や写真を飾り、個々にくつろげる空間となっている。掃除が行き届き、居心地良く生活している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要箇所に手すりを設置し、居室内の家具等も個々の状況に合わせて配置している。自分で行えることは行ってもらえる様安全に声掛けし過ぎず、手を出し過ぎず、じっくり見守ることをして努めている。		